

「あれ、それ」です、話



有名人が認知症になったりすると、もの忘れ外来は急に忙しくなる。70歳のN子さん。「センス、わたし認知症かも。この頃、ひとの名前が出てこない」と深刻そうだが、歌手の名前が思い出せないくらいで大騒ぎするひとは認知症ではない。認知症になると、患者さんは静かにして、いっしょに来た家族が大騒ぎをする。

だいたい、ひとの名前が思い出せないなんて、ワッシーなんかしょつ

年相応のもの忘れ

ちゅうだ。「あれ、それ」で会話をすましている。が、認知症の心配などしたことがない。後で、ちゃんと名前を思い出すからだ。「年を取るだけ、記憶量が多くなる。ものがいっぱい詰まった引き出しから、欲しいものを取り出すのに時間がかかる」と、逆に威張っている。

認知症でも、一番多いアルツハイマー型認知症では、「記銘力低下」といって、聞いた事や自分のしたこととをすぐに忘れてしまうようにな

る。体験したことをすっかり忘れてしまつと、日常生活に支障を来す。ひととの約束を忘れたり、失くしものが多くなったりする。

「あら、センス。わたし、電気の消し忘れや、さがしものはよくあるワ」と、Nさんは簡単には引き下らない。だが、し忘れや置き忘れがあるからイコール認知症ではない。年を取り、経験が多くなると、

5人のうち4人も大丈夫

し慣れた行動は、注意を向けなくてもできるようになる。忘れたのではなく、注意もせず、記憶もしなかっただけかもしれないのだ。

一般に、認知症を心配するひとほど、「年相応のもの忘れ」であることが多い。「でも、10年後には、65歳以上の5人に1人が認知症になるというじゃない」とN子さん。情報が氾濫し、不安は募る一方だ。が、ものは考えよう。ワッシーなら、5人のうち4人も大丈夫だと思うのだが…。

(石黒修三||いしぐるクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住)